

令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年3月9日
函館市立中の沢小学校

1 本年度の重点教育目標

他を思いやり，支え合う子供の育成

2 本年度の取組の重点

- ① 子供のウェルビーイングを目指した安心で安定した学校づくり
- ② 児童や地域の特性を活かした「社会に開かれた教育課程」の実現
- ③ 特別支援教育の推進
- ④ 豊かな学習環境づくりの充実
- ⑤ 働き方改革の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野 | 評価項目 | 自己評価結果 | | 学校関係者評価 | | |
|--------------------------------|---|--------|---|----------|----------|---|
| | | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善の方策の評価 | 主な意見（改善策など） |
| ①子供のウェルビーイングを目指した安心・安全な学校づくり | 保護者や地域の方々との連携を深め、児童が生き生きと自分らしさを発揮できる安全安心な学校を創ることができたか。 | b | 登下校の見守りや校外学習等など、保護者や地域の協力を得ながら安心・安全な学校づくりを推進することができた。今後はウェルビーイングな学校づくりについて具体的に共有しながらさらに安心・安全な環境を整える。 | B | B | 地域の安全の見守り体制がしっかりできており、学校と地域の連携が進んでいるので、自己評価はaでよい。 |
| ②児童や地域の特性を活かした「社会に開かれた教育課程」の実現 | 保護者や地域の方々との連携を深め、「開かれた教育課程」の理念を踏まえた「コミュニティ・スクール」の取組を推進することができたか。 | b | 包括支援センターや保育園等と連携し、保護者の協力を得ながら教育活動を行うことができた。次年度は校内の地域連携担当を中心にさらに連携を深め、教育活動を充実させたい。 | B | B | 次年度、地域コーディネーターとして、さらに地域の行事への参加、学校行事への協力を地域に依頼するなど、活動の幅を広げていきたい。 |
| ③特別支援教育の推進 | 通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実を組織的に推進することができたか | a | 特別委員会を機能させ、保護者・関係機関と連携しながらスタールームの運用や支援員の配置の工夫、学習支援の教材の整備等、児童一人一人のニーズに応じた支援の充実を図ることができた。次年度も各所と連携し、取組を充実させる。 | A | A | |
| ④豊かな学習環境の充実 | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うとともに、ICT等の教材教具を整備し、児童の学びを充実させることができたか。 | b | 校内研修を充実させ、授業改善やICTの活用など、児童の学びの充実に努めた。次年度はどの児童でも「できた」「わかった」と実感できる授業の構築に向けて、授業改善を推進する。 | A | A | |
| ⑤働き方改革の推進 | 保護者や地域と連携した今日的な課題への取組や校務の効率化など教職員の業務改善により児童と向き合う時間の確保に努めることができたか。 | a | コアチームを中心として計画的に校務の効率化を進め、児童と向き合う時間の確保と時間外在校時間短縮を実現した。今後、勤務時間・休憩時間の周知など、保護者・地域の理解を得ながらさらに働き方改革を推進する。 | A | A | 学校は以前よりも働き方改革が進んでいるが、保護者も先生方の働く時間を認識する必要があると思う。（先生方はがんばっている） |

■ 自己評価達成状況

| | |
|---|----------------|
| a | ほぼ達成できた（8割以上） |
| b | 概ね達成できた（6割以上） |
| c | 十分ではない（4割以上） |
| d | 達成できなかった（4割未満） |

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

| | |
|---|--------------------------------|
| A | 自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。 |
| B | 自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。 |
| C | 自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。 |
| D | 自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。 |